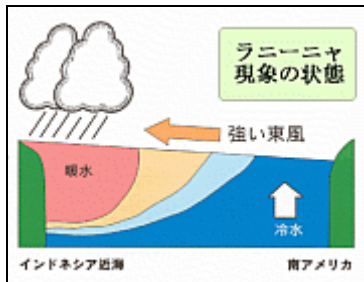


日立の気象 (104) 猛暑の夏とラニーニャ現象

太平洋赤道域の中央部から南米ペルー沿岸にかけての海面水温が平年より高くなる現象を「エルニーニョ現象」といいますが、それとは逆にこの海域の海面水温が低くなる現象は「ラニーニャ現象」（スペイン語で女の子の意）と呼んでいます。



ラニーニャ現象模式図(気象庁資料)

通常太平洋赤道域の海面付近では、貿易風と呼ばれる東風が吹いています。ラニーニャ現象が起こると東風が平常時より強くなって、西部に暖かい水が蓄積され、インドネシア近海では積乱雲がより一層盛んに発生します。

ラニーニャ現象は日本の天候にも影響し、「暑い夏」と「寒い冬」になる確率が高いといわれています。

ことしの夏の天候も、関東地方の梅雨明けが平年より12日も遅くなった影響で、7月の気温は平年より低く、雨量も多くなりました。しかし、8月1日の梅雨明けとともに、一転して暑い夏空が続き全国的な高温となりました。

8月16日には、埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市で気温40.9℃を観測し、1933年(昭和8年)に山形市で観測された40.8℃の国内最高気温の記録が74年ぶりに更新されました。

日立の最も高い気温は34.5℃で、35℃以上の「猛暑日」は観測されませんでした。8月の最高気温の月平均は30.2℃と平年より1.9℃高くなり、最高気温30℃以上の「真夏日」は19日と平年(10.3日)の約2倍になりました。

この暑い夏の要因のひとつは、ラニーニャ現象の影響でフィリピン付近の対流活動が活発になり、太平洋高気圧が日本付近で強まったためと考えられます。

【10月の気象と月の暦】

ことしの「仲秋の名月」は9月25日でしたが、今月23日は「十三夜の月」(粟名月ともいう)、11月19日は「十日夜の月」(旧暦10月10日で稻名月ともいう)。これらを「秋の三月見」と呼ぶこともあり、名月の鑑賞にはうってつけの秋の夜長の季節です。

- ▽ 3日 月相 ◐ 下弦
- ▽ 9日 「寒露」(二十四節気)
- ▽ 11日 月相 ● 朔
- ▽ 19日 月相 ◑ 上弦
- ▽ 23日 「十三夜」(旧暦9月13日)
- ▽ 24日 「霜降」(二十四節気)
- ▽ 26日 月相 ○ 望

日立の気候表

	9月	10月	11月
平均気温	21.6℃	16.6℃	11.8℃
降水量	197.9mm	159.2mm	81.2mm
日照時間	129.8時間	152.5時間	161.9時間

平年値(1971~2000年)

<10月の気温・降水量予報:関東甲信地方>

天気は数日の周期で変わり。気温は平年並か高い確率ともに40%。降水量は平年並の確率が40%と予想されています。



※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。

<http://www.jsdi.or.jp/~htenso>

行政放送(ケーブルテレビ5ch)でも定期的に天気予報をお知らせしています。

電話での問合せは、直通電話22-5520 IP電話050-5528-5066へどうぞ。